

第43号(2009年10月・秋号)

北星学園大学 北星学園大学短期大学部

学生相談センター 学 牛 相 談 宰

日ごとに秋の気配が深くなっていますね。気がつけば、2009年も残りあと2ヶ月半になりました。良い年だったと思えるよう、残りの日々を大切に過ごしたいものですね。



「食うべき草があるならばその道草を食いなさい」

社会福祉学部 福祉心理学科 佐藤至子

あなたは串田孫一という数年前に亡くなった詩人・哲学者で随筆家、という人の名前を聞いたことがあるでしょうか?? 東京生まれで大学では哲学を専攻し教壇に立つかたわら中学生年代から登山を始め山歩きの魅力に生涯ひかれ続けた人です。私にとっては大学生の頃に興味を持ってあちらこちらの小さな劇場に通った中でも好きなお芝居が多かった自由劇場の主催者をしていた演出家であり俳優の串田和美がその息子だったと言うことを後で知った時の方が印象が強かったといってもよい人です。最初にあげた「食うべき草があるならばその道草を食いなさい」というフレーズ以外に私が串田孫一について知っていることといったら、長年通勤途中に乗り換えていた駅のプラットフォームから彼がかかわっていた山歩きをする人たちにとっては懐かしい場所になっているらしい喫茶店の壁に彼が描いたリュックサックを背負った人の素描が見慣れたものになっていたことくらいのまま、何十年かが過ぎてしまいました。

このフレーズに私が出会ったのは高校生の頃ファッション誌であると同時にけっこうさまざまな人たちがエッセイを書いている昔々の雑誌の中でした。

"道草を食う "というのはふだんしてはいけないこととして子どもの頃からさまざまなシチュエーションの中で言われてきたことだったと思います。"道草を食わないでちゃんとまっすぐ帰っていらっしゃいね"、こういわれたことを簡単に思い出すことのできる方が多いのではないでしょうか? そんな中で、その頃の私にとってこの串田孫一の言葉は新鮮なものに感じられたのでしょう、その後も何かの折りにふと心に浮かぶ言葉になっています。

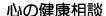
"道草を食う"ことが時には何か新しいことへの入り口になるかも知れない、けれどもそれはどんな道草でも、ということではなさそう、でも"食うべき草"として自分の目にとまったもの、それは自分が選んだものということなのか…。いくつになってもついさまざまなことに目移りがしてしまうけれども、私が食べてみようと思ってこれまでに選んできたたくさんの道草を選ぶ時に私は何を感じて選んできていたのか…。時を重ねてからの私は時々、自分に問いかけてみるようになりました。

学生の時代というのはきっとそれまでよりも、そしてそれからよりも少し自由にさまざまな道草に目をとめてみてよい時期なのかしらと思います。自分が専攻した分野とはまったく違った分野や自分が育った文化以外の文化に目を向けてみる、そんなチャンスの多い時期かも知れません。もう一人、日本の詩人の言葉を思い出しました。寺山修司の言葉です。「書を捨てよう、街に出よう」この言葉も串田孫一の言葉と一緒に私の心に残っている言葉です。



異性との関係

大学生ともなると、異性を意識したり、個人的な付き合いになる機会も増えてくると思います。人を好きになるというのは自然な感情ですし、異性との親密な関係の中で、支え、支えられるという体験をし、さらには人間として成長できる可能性もあります。けれども、恋愛感情というのは非常に強いものですし、性の衝動も動きます。こうした感情や衝動と付き合っていくというのはなかなかやっかいなことです。また、特に最初の頃は相手を理想化しがちですが、現実には完璧な人間などいません。実際に付き合っていれば、自分の理想とは違う面も見えてきます。その時、理想と現実のギャップが激しいと、がっかりして一気に気持ちが冷めてしまったり、相手を責めてしまうということが起こる場合もあるようです。あるいは人によっては、相手の理想に合わせようとして自分が苦しくなってしまうこともあるかもしれません。このように、異性との関係には、友達関係とは違う難しさが含まれていると言えるでしょう。関係を作っていく為には、自分の気持ちや考え(時には思い込みや勝手な期待)に素直に目を向けてみること、現実の相手をよく見、言葉に耳を傾けて相手の気持ちを理解しようとすること、そして自分を理解してもらう為に自分の気持ちを表現してみることなど、努力も必要になります。そして同時に、相手と自分は違う人間であることを認め、一致することにこだわり過ぎないということも大切なのではないでしょうか。とは言っても、現実にはそう上手くはいきません。ケンカしたりギクシャクしたりすることもあるでしょう。焦らずに、自分と相手の両方を大切にする為にどうしたらいいか模索していけるといいですね。



学生相談室では、本学の上野武治教授(精神科医)による「心の健康相談」を行なっています(第2第4月曜日11時30分~13時30分)。精神医学的な立場からアドバイスを受けたい方はどうぞご利用ください。当日来室して相談することも可能ですが、予約優先になっています。詳細は相談室スタッフに問い合わせください。

【今後の実施日】10月26日 11月9、30日 12月14、28日 1月4日



相談したい方は、学生相談室を直接訪ねてください。電話 やメールで予約をとることもできます。科目等履修生、研究生、休学中の方も利用可能です。相談の秘密は守ります。 また、学生相談室には、オープンスペースが2部屋(「やすらぎルーム」「りらルーム」) あります。相談がない学生でも気軽に利用できますので、授業の空き時間や昼休みなど、静かにゆっくり過ごしたい時にご利用ください。

編集後記

新型インフルエンザの感染が広がってきているようですね。 多くの人は軽症で回復しているようですが、決して油断せず、日頃から予防を心がけて生活してくださいね。秋の夜長ではありますが、夜更かしが過ぎて睡眠不足にならないよう、気をつけてください。(安)

相談室の開室時間

月	火	水	木	金
近田	近田	近田	近田	小林
白坂	安部	小林	安部	白坂

※月曜日~金曜日の9:00~17:00開室。 相談スタッフは2名体制です。

T004-8631

札幌市厚別区大谷地西 2-3-1 北星学園大学 北星学園大学短期大学部 学 生 相 談 室

直通 TEL & FAX 011-891-3929